

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	18240
課題名	変革理論に基づいた集中治療室における早期離床システムの導入プロセス
研究期間	倫理委員会承認日～2020年3月31日
研究の対象	2017年4月から2019年3月の期間において、予定の手術で開心術を受けた後に旭川医科大学病院の集中治療室(以下、ICU)に入室した方。このうち、ICU入室中に再開胸手術を受けた場合、術後に経皮的心肺補助装置(ECMO)または補助人工心臓(VAD)を装着した場合、小児患者は除きます。
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報 詳細:性別や年齢、疾患、術式、手術中の出血量と輸血量、気管挿管日数、早期離床の有無、端座位と歩行実施までの日数、有害事象の有無(デバイス事故抜去、転倒、呼吸状態が悪化した等)、血液透析の有無、ICU入院日数、総入院日数、転帰、各臓器の障害度を示すSequential Organ Failure Assessment (以下、SOFA)スコアを使用する <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織 (対象臓器等名 :) <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他 ()
研究の意義、目的	<p>2018年の診療報酬の改定により、医師や看護師、理学療法士などの多職種チームがプロトコルに基づいて早期離床を実践することを算定要件とした早期離床リハビリテーション加算が新設されました。旭川医科大学病院 ICU では、2018年度よりレヴィンの変革理論に基づいて早期離床プロトコルや理学療法士のICU専従化等の早期離床システムを導入しています。</p> <p>これまでの研究より、この変革理論を用いることで変革推進者の役割や各段階における問題点の明確化に有効であることが示唆されています。そこで本研究では、レヴィンの変革理論に基づいた各時期の早期離床に関するデータを加味しながら、変革推進者の活動によってICUという組織が早期離床を取り入れるまでの過程を明らかにすることで、現在の活動の軌道修正の検討や、今後の定着を図るための示唆を得ることができると考えています。</p>
研究の方法	診療記録より、ICUにおける早期離床の実施状況や術後の端座位や歩行実施までの日数、有害事象発生の有無について早期離床に関する取り組み導入前、移行期、導入後の比較検討をします。
その他	特になし
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：北海道旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号

電話：0166-65-2111（内線 3570）

担当者の所属 看護部 ICU ナースステーション 酒井周平

研究責任者：

旭川医科大学病院 看護部 ICU ナースステーション 看護師 酒井周平